

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20220007	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	神経可塑性及び脳の発達における IP3 受容体のカルシウムシグナリングの解析	研究代表者 (所属・職)	御子柴 克彦（理化学研究所・脳科学総合研究センター・チームリーダー）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者が世界に先駆けて発見同定した、小胞体のカルシウムチャンネルである IP3 受容体の構造と機能の網羅的研究を通じて、広い分野で大きな成果を挙げている。特筆すべきは、ヒトの病気における IP3 受容体の役割であり、脳障害とてんかん、心不全、先天性心疾患、骨粗鬆症など、広範な臓器の疾患と治療薬開発への貢献である。研究成果の情報公開と社会還元にも積極的である。</p> <p>このような本研究から新たに判明しつつある派生的成果の広がりや進展と比較して、本研究の本題である神経可塑性と脳の発達における関与に関する研究の進展が、いまひとつ明確でないように思われる。新たに開発に成功した世界最高感度のカルシウムイオン検出センサーなどを駆使して、ヒトの疾患研究を推進する基礎的研究成果がより多く達成されることを期待したい。</p>	